

32. 「優しさのかたち」

2010年7月1日 社会福祉法人 江刺保育園

優しい心とは、どんなことなのでしょう。子どもの気持ちになって考えてみましょう。

お母さんの嬉しそうな笑顔、オムツを替えているときのお母さんの手、おにぎりを握っているときのお母さんの手、買い物と一緒にいくとき私の手を握ってくれるお母さんの手、高い高いしてくれる逞しいお父さんの腕、絵本を読んでくれるお母さん、お父さんの声、幼稚園や保育園に迎えに来てくれるお母さん、お父さんの顔、病氣した時私の顔を見つめる心配そうなお母さん、お父さんの顔、一緒に遊んでくれる楽しそうなお母さん、お父さんの顔、庭のお花に水をあげるお母さんの手と顔、泣いているとき抱っこして慰めてくれるお母さん、お父さんの声、ごはんを作ってくれるお母さんの手、朝「おはよう」と言ってくれるお母さん、お父さんの声、……

何気ない日常生活の中で、私たちはたくさんの優しさを表現しています。子どもの命を愛しむ心と行動が一体となって優しさを表現しています。子どもの誕生を心から喜び、共に生きることを感謝できる時、私たちは何も意識しなくても自然に優しさを表現することができます。苦しみも悩みも悲しみもありません。私たちの心は豊かな喜びに満たされています。

それは、私たちが自分の母親や父親から愛されて育てられたという記憶があるからです。特に母親の優しい声は、母親の体に命が授かった時点ですでに触れることができます。それは子どもたちの心の奥に大切に保管されています。それがそれぞれの子どもたちの生きる力となるのです。

優しさを自分は表現できないという方もいるかもしれませんが、そのことで自分を責めてしまう方もいるかもしれませんが、優しさはこれが優しさだと自分が判断するものではないのです。また、優しさを表現することだけのために努力することはしなくても良いと思います。必要なことは今を生きることを大切に、一生懸命に自分のやるべきことをして、自分の人生は、みんなを生かしている人生だと確認できるようになった時、毎日の営みの中で知らず知らずのうちに自然と優しさを表現できるようになるのだと私は思います。

優しさの形は人によってみんな違います。大人になったら優しさを表現するよりは、優しさを優しさとしてあるがままに受け取り感じることでできる心を持ちたいと私は思います。



《チーズとレーズンの
巻き揚げ》

10本分
春巻きの皮 5枚
プロセスチーズ 100g
レーズン 60g
揚げ油 適宜

《作り方》

下準備として小麦粉と水（分量外）を練って、春巻きを留めるのりを作っておく。

- ① 春巻きの皮は半分に切り 10枚にする。
プロセスチーズは1cm角に切る。春巻きの皮の手前にレーズンと切ったチーズを交互に並べて、のりをつけてくるくる巻く。
- ② 中温の油で春巻きをカリッとするまで揚げる。

